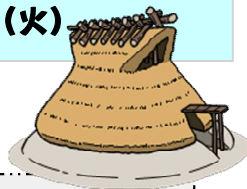




富士市立大淵第一小学校



出前授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター

令和5年9月19日(火)

「縄文と弥生の違いを、土器の違いから生活様式が違っていることを示していただき、内容もとても良かったです。」

富士市立大淵第一小学校の6年生102人が、縄文・弥生時代の道具から見てくる時代背景や生活様式を知ることを目的に、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの3つの体験を行いました。

土器の分類体験



縄文土器と弥生土器の違いと、それぞれの時代の生活様式について学習しました。本物の土器に触ることによって、土器の違いで生活の仕方が変わったことを理解でき、縄文時代と弥生時代の違いを再認識したと思います。本物に触ることで理解を深めました。

「実際に本物に触れたことで、色や形の違いや、質感や肌触りの違いを知ることができ、より一層理解が深まった。」



石器の試し切り体験



金属が日本に入ってくるまでは、金属の代わりに石を使い、様々なことをしていたことを知り、黒曜石で、紙や野菜を切ってみました。

「黒曜石の切れ味にびっくりした。」「黒曜石の使い途について知れた。」「昔の人はよく見つけたなと思った。」

子どもたちは、切れ味のすごさに驚いていました。



火起こし体験



もみぎり法や弓ぎり法等を紹介した後、舞ぎり法のやり方を説明しました。舞ぎり法をテレビ番組で見ている子どもたちも実際やるとなると、なかなか簡単にはいかず、苦戦していました。それでも、弾み車を調子よく回せるようになると火種を作ることができ、フォータイムを何とか乗り越え、火を起こすことができました。火が起きたときの達成感を班員と味わうことができました。

「簡単そうに見えて難しかった。現在ではチャッカマンですぐ火がつくので、文明のすごさを感じた。」



先生方の感想

「私たちが黒曜石を子どもたちに見せるのは、長野県の真っ黒な物でしたが、北海道産だと赤みがかっている等、場所が違えば色も違うことなど、子どもの目線で、わかりやすかったです。縄文と弥生の違いを、土器の違いから生活様式が違っていることを示していただき、内容もとても良かったです。実施場所の急な変更にも対応していただき有難かったです。ありがとうございました。」

